

学 務 課

学 務 係

学 校 教 育

1. 小・中学校

(1) 児童、生徒学級

48. 5. 1現在

児童・生徒 学級数 学年 学校名	児 童 ・ 生 徒 数							学 級 数							教 職 員 数	
								普 通 学 級						特 殊 学 級		
	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年			6年
福生第一小学校	(10) 654	96	(5) 128	109	(2) 109	(2) 95	(1) 117	18	3	3	3	3	3	3	1	28
〃 第二 〃	811	139	122	148	123	138	141	22	4	3	4	3	4	4		30
〃 第三 〃	1,028	183	212	162	164	162	145	26	5	5	4	4	4	4		35
〃 第四 〃	418	59	80	72	75	69	63	12	2	2	2	2	2	2		18
〃 第五 〃	494	93	93	92	81	75	60	15	3	3	3	2	2	2		22
〃 第六 〃	536	134	117	100	81	52	52	15	3	3	3	2	2	2		22
小 学 校 計	(10) 3,941	704	(5) 752	683	(2) 633	(2) 591	(1) 578	108	20	19	19	16	17	17	1	155
福生第一中学校	898	322	266	310				21	8	6	7					37
〃 第二 〃	610	200	197	213				15	5	5	5					25
中 学 校 計	1,508	522	463	523				36	13	11	12					62

() は、特殊学級児童生徒数

2. 教育振興

(1) 小学校

指導目標（学校教育方針・※学校教育指導参照）を基礎にして各教科用備品を購入し、教材教具の活用を図り、学習指導の効果につとめた。

特に第六小学校ではOHPを利用した算数の研究発表をした。

なお、児童の健全な学習環境を考え、机・椅子の補充をし、学校保健、学校安全会、就学、

転入、転出、準要保護などの事務を処理し、学校保健については、児童の健康管理のため、寄生虫、蟯虫卵検査と結核健康診断X線検査を実施した。

さらに、高学年による夏季行事の臨海学校及び林間学校の参加者の児童、教職員に傷害保険をかけ万全を期した。

また、新入学児童に対しては補助教材費（算数セット等）を支給して父母負担の軽減を図った。

その他、多摩河原区画整理事業に伴う公団住宅の建設による児童の急増が予想されるので、児童がよりよい教育環境の中で勉強できるように昭和49年4月に第七小学校が開校されるので、そのための準備をした。

また、第一小学校においては、開校後100年をむかえたので、100周年記念を行った。

(2) 中学校

指導目標（学校教育方針・※学校教育指導参照）を基礎として各教科用備品の整備を図り、学習指導とクラブ活動の効率に努めた。

なお、生徒の健全な学習環境を考え、学校保健、学校安全会、就学、転入、転出、準要保護などの事務を処理し、学校保健については、生徒の健康管理のため、寄生虫、蟯虫卵検査と結核健康診断X線検査を実施した。

その他、多摩河原区画整理事業に伴う公団住宅の建設による生徒の急増が予想されるので、生徒がよりよい教育環境の中で勉強ができるよう、昭和49年4月に第三中学校が開校されるのでそのための準備をした。

教 職 員 係

市立小中学校教職員の動き

49. 3. 31現在

小 中 学 校 別	項 目	転出者数	退職者数	新 規 採用者数	転入者数	48年度 教職員数	48年度中に 採用した非常 勤講師の延数
	学校別						
小 学 校	一 小	3	1	1	1	28	1
	二 小	3		1	2	30	1
	三 小	4	1	7	2	35	2
	四 小					18	
	五 小	2		3	2	22	4
	六 小	2		1	3	22	
	計	14	2	13	10	155	8
中 学 校	一 中	1	1	2	3	37	9
	二 中			2	2	25	9
	計	1	1	4	5	62	18
小 中 の 計		15	3	17	15	217	26

- 注 1. 転入者数 現職で他市区町村から福生市内の小中学校に赴任した教職員数
 2. 転出者数 現職で福生市内の小中学校から他市区町村へ赴任した教職員数

指 導 係

1. 学校教育の方針

(1) 小学校

ア. 学校経営、学年・学級経営

(ア) 学校の教育目標が、各学年、学級を通じて児童ひとりひとりの望ましい人間形成に具現されるように努める。

(イ) 教師は、児童の個性と能力を正しく理解し、心の交流がじゅうぶんはかれるようにする。

イ. 教育課程、学習指導

(ア) 教育課程の編成に当たっては、地域児童の実態に基づき調和と統一のとれるようにし、その実施に当たっては、児童に正しく身につくように努める。

(イ) 学習指導に当たっては、目標を明確にし、内容の精選を図り、指導法の改善に努めるとともに、児童の学習意欲が育つようによくふりする。

(ウ) 学習環境を整え、教材教具の活用につとめ、学習指導の効率を高めるようにする。

(エ) 適正な学習評価が行われるようにする。

ウ. 道徳教育、生活指導

(ア) 深く、児童の心にふれあって、その道徳性と社会性が正しく養われるよう、学校教育全体の中で、計画的に指導をすすめる。

(イ) 生活指導の組織を生かし、効果的な指導をするように努める。

(ウ) 家庭、地域社会との連携を図り、校外における生活が、自律的に行われ望ましい生活態度の育成に努める。

エ. 健康、安全教育

(ア) 児童の体力の向上につとめるとともに、心身の調和のある発達を促すように努める。

(イ) 児童の生命尊重に万全を期し、安全指導の充実につとめる。とくに、交通安全指導校内における安全の確保につとめる。

オ. 情操、科学教育

(ア) 学校教育全体を通じて、人間性豊かな心情が培われるように努める。

(イ) 科学的なものの見方、考え方を伸ばすように努める。

(2) 中学校

ア. 学校経営、学年・学級経営

(ア) 学校経営にくふうをし、望ましい教育活動の推進を図る。

(イ) 教師は、個々の生徒の理解につとめ、心の交流がじゅうぶんにはかれるように配慮するとともに、教科担任教師との連絡を密にし、学級経営の充実をはかる。

(ウ) 学年経営をくふうし、学年内相互、学年間相互の連絡がとれるように努める。

イ. 教育課程、学習指導

(ア) 教育課程の編成に当たっては、地域、生徒の実態をふまえ、調和と統一のとれるように努める。

(イ) 教科、領域の指導に当たっては、指導のねらいを明確にし、指導内容の精選、指導法の改善に努める。

(ウ) 教材、教具の効果的な活用につとめ、学習の効率を高めるように努める。

(エ) 適正な学習評価が行われるようにする。

ウ. 道徳、生活指導

(ア) 学校教育全体の中で、道徳教育をすすめ、生徒の徳性を高めるように努める。

(イ) 教科領域の指導の中で、生活指導の徹底を図り、生徒との心の交流に努める。

エ. 健康、安全教育

(ア) 体育、クラブ活動、その他の教育活動を通じて体力の増強を図り、健康な生活が営めるようにする。

(イ) 安全確保は、学校において常に留意すべきである。

学習指導中の安全指導、校外における安全指導等について一層の配慮をする。

オ. 情操教育、科学教育

人間性豊かな心情を培い、科学的態度を身につけるよう指導に努めるとともに、学校における環境づくりに配慮する。

カ. 進路指導

個々の生徒の適性をはあくし、進路指導の充実につとめる。

2. 指導関係事業

(1) 学校訪問、研究会訪問

学校訪問及び各種研究会への訪問による助言指導を行ってきた。

(2) 研修事業

昭和48年度は、つぎの研修会を実施し、教職員の資質の向上を図った。

ア. 学校経営研修会 4回

イ. 学年・学級経営研修会 3回

ウ. 道徳教育研修会	3回
エ. 新規採用教員研修会	16回
オ. 養護連絡会	10回
カ. 校外指導連絡会	10回
キ. 同和教育研修会	2回
ク. 心身障害児教育研修会	4回

(3) 研究発表校

ア. 学校公開実施校	福生第六小学校
イ. 文書発表実施校	福生第三小学校 福生第五小学校

(4) 教職員に対する教育研究委託

- ア. 学校経営調査研究委託
- イ. 学校事務研究委託
- ウ. 学校養護研究委託
- エ. 研究発表校研究委託
- オ. 社会科副読本等改訂調査研究委託
- カ. 研究員研究委託
- キ. 小学校教科書採択調査研究委託
- ク. 心身障害児教育調査研究委託

(5) 指導関係資料の刊行

- ア. 指導要覧
- イ. 研究紀要
- ウ. 改訂社会科副読本
- エ. 教育相談のしおり
- オ. 心身障害児教育のあゆみ

(6) 心身障害児教育の推進

- ア. 心身障害児学級

福生第一小学校に、福原学級として開設された心身障害児学級も2年目を迎え、入級児童10人を数えるに至った。

- イ. 心身障害児教育運営委員会

心身障害児教育推進のための組織として、心身障害児教育運営委員会を、つぎのような構成によって設置している。

P T A 会 長	1 0 人
小 中 学 校 長	1 0 人
教 諭	1 2 人
教 育 委 員	4 人
教 育 委 員 会 事 務 局	若 干

ウ. 心身障害児教育運営委員会の活動

運営委員会のなかに実行委員会をおき、調査・研究、広報、入級指導、入級判別等の実際活動を推進してきた。

(7) その他

科学教育センター

小学校は、青梅第一小学校を会場とし、福生市立小学校の児童もここに参加し、研究した。

中学校は、青梅第二中学校に西多摩地区の本室がおかれ、ここに生徒が参加し、研究を行った。

3. 教育相談

(1) 昭和48年度における相談件数

	学年		幼児		小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3		計		合		
	性別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		計	
知能・学業に関するケース	2	2	6	3	2	4	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13	9	22		
性格・行動に関するケース	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
進路・適性に関するケース	3	1	4	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	8	17
身体・神経に関するケース	2	4	0	3	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	9	14
計	10	7	10	9	5	9	1	0	2	0	2	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	26	59

(2) 終結までの回数

回 数	1	2	3	4	5	6	人 数	59人
人 数	18	25	7	4	4	1	延べ回数	131
延べ回数	18	50	21	16	20	6	1人平均回数	2.4